

校歌

作詞／杉山 茂 作曲／和久田照彦

- 1 ^{きん こ}金鯢に映ゆる 東海の
^{たちばな}橘香る 学園に
輝く伝統 うけつぎて
誠実一路 限りなき
工業技術 究めゆく
愛産大工高 ^{こうぎょう}希望あれ



- 2 伊吹連峰 雲晴れて
文化の鐘の 鳴るところ
心を磨き 身を鍛え
創意工夫 ひたすらに
工業技術 修めゆく
愛産大工高 ^{こうぎょう}光あれ



- 3 遥かに望む 伊勢の海
平和を謳う ^{うた}波静か
雄飛の明日を えがきつつ
積極進取 たゆみなく
工業技術 ^{ひら}拓きゆく
愛産大工高 ^{こうぎょう}栄えあれ



誓いの言葉

私たちは

父母のおかげで

勉学する機会が与えられているから

その期待にそむかず

一生に二度とこないこの時を

無駄にすることなく

勉学と修養に励み

社会から喜ばれる

人間になろう

●人生いかに生きぬくべきか（高校生に自覚を望む）

創立以来、誓いの言葉は本校生徒が毎日朝礼時に全員で斉唱します。また、毎時間の授業のはじめに行う「黙想」の時にも静かに繰り返し黙想して心に刻みつけ、心持ちを落ち着けてから勉強にとりかかるようにしています。いよいよ勉強にとりかかれば作業を伴う学習時には「黙働」、作業を伴わない学習時には「黙学」をモットーにして真剣に勉学と修養に励みます。このような心構えのもとに本校の三カ年を充実して送ることで卒業して社会生活に入った後も一生の間「社会から喜ばれる人間になろう」という誓いを実践していけるのです。

誓いの言葉は人間生活の信条や指針の最も教示したい点をわかりやすい言葉にしぼりかためたものであり、この誓いの言葉を実践することで全ての人々が立派に人格を完成することができ、人間社会に素晴らしい平和な理想社会が実現できると確信します。

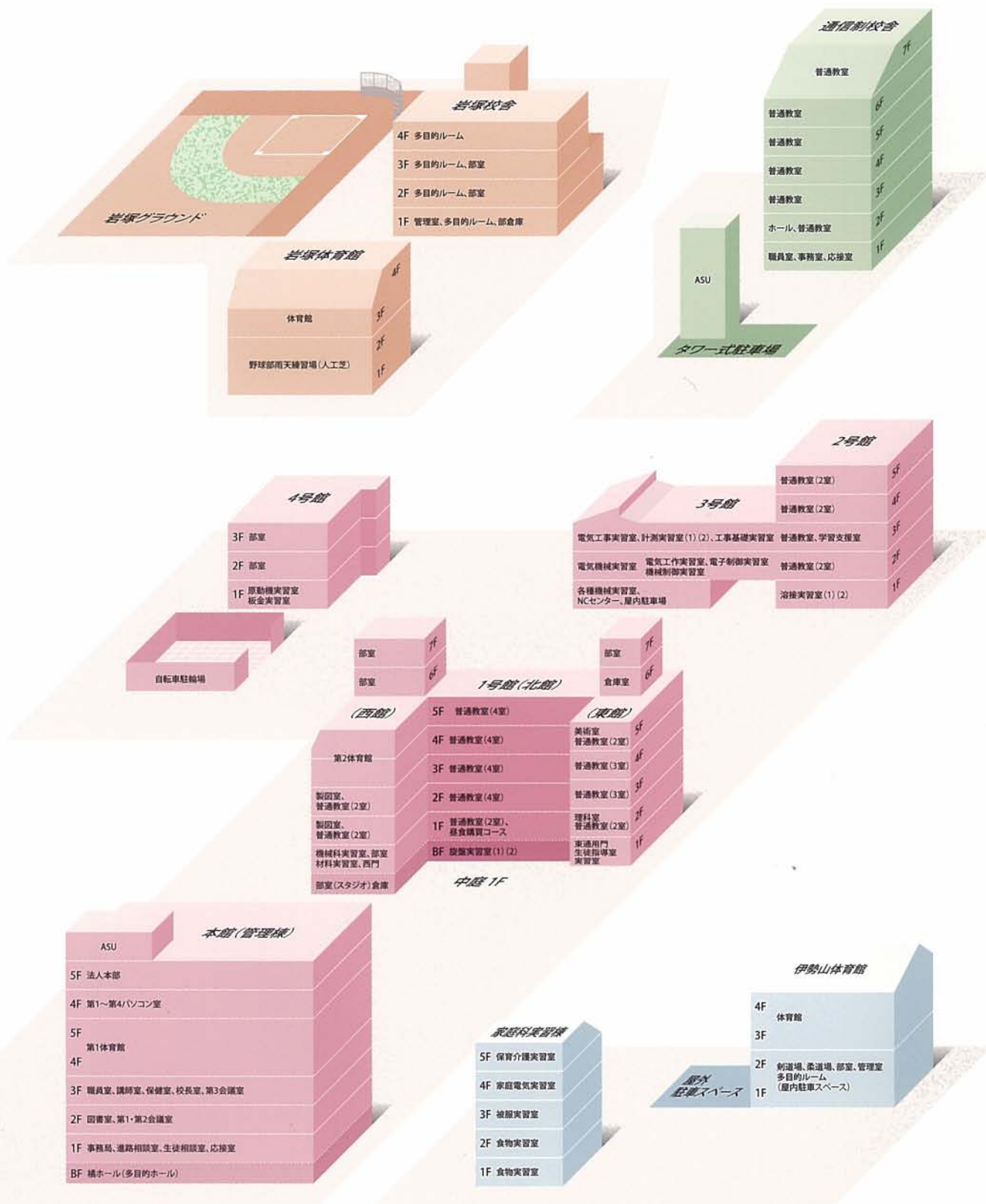
義務教育後本校の教育を受講させてもらえるのは保護者の深い愛情があればこそであり、保護者としては本校で力強く人生を生きぬいていける実力（社会から喜ばれると共に社会に貢献できる技術者）を身につけた青年になることに全幅の信頼と期待をかけておられるのです。この期待と深い愛情に感謝すると共にその期待に副うように本校の三カ年を勉学と修養に努力を傾けなければなりません。この青年期は二度とやって来ません。そして全てのものは一期一会の一回限りのものと考えます。それゆえに毎日の絶えざる努力から実力は身に付くものと日々考え、一日一日を大切に真剣に取り組まなくてはなりません。次に『社会から喜ばれる人間』の条件は「心身ともに健康な人間」であり、「世界中の人々から愛される技術者」ということになります。心身ともに健康な人とはまず丈夫な肉体をつくることに努力する人であることはいうまでもなく、精神的な条件として物事の道理を理解し不合理を憎み真理を愛する人、人間生活の決まりを守り実行できる人、個人の価値を尊ぶあたたかい思いやりの精神を身につけた人、積極的に創意工夫して勤労と責任を重んずる言行一致の嘘を言わない誠実な人、自主的精神に充ちた積極的に自律のできる人を示します。

孔子は「忠」真心を持って誠を尽くすこと、「恕」あたたかい思いやりを人にかけること、「礼」社会生活の決まりを守ること、この3つを積極的に実行することを仁といい、その最終の目あては「己の欲する所に従って矩をこえず」の境地に達することです。この境地に達した人間を孔子は君子といい、釈迦は如来とか真人とか申しました。これはまさに人格を完成した人間であり、社会から喜ばれる人間であると思います。世間で言うように人に言われなくても積極的に進んで実行する人間が上の位の人間であり、人に言われると渋々やるのが中の位の人間であり、人にしつこく言われてもやらないのが下の位の人間です。実業に携わる者にはこの教えは人生を堂々と自信を持って進むためには大切なことなのです。この意を含んだ誓いの言葉を身に付けて50年間22000名余の卒業生が各界で活躍しています。

施設・設備 Facilities

知識と技術を学び、スポーツに励む、抜群の環境。

工業技術の進化に合わせ、常に最新の施設・設備を導入しています。さまざまな技術を、より実践に近いカタチで学ぶことができます。勉強だけでなく、体育館、グラウンド、剣道場、柔道場などスポーツや部活動の施設も充実。多目的ホールや図書室も備え、生徒の好奇心や向上心に応える環境を用意しています。



●本館(管理棟)



パソコン室(4室)



職員室



第1体育館



講師室



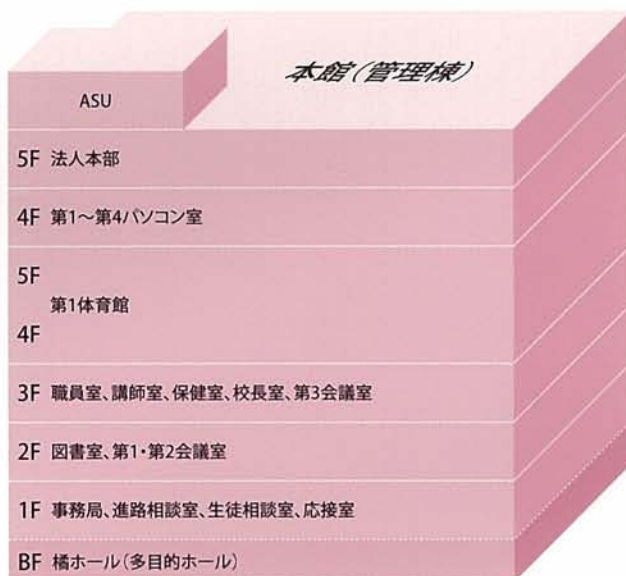
保健室



第3会議室



第2会議室



校長室



生徒相談室(カウンセリングルーム)



図書室



進路指導室

進路資料室



ロビー棚



事務局、1階ロビー



橋ホール(多目的ホール)



応接室(5室)

施設・設備 Facilities

●1号館



製図室



美術室



第2体育館



普通教室



旋盤実習室



昼食購買ホール



新設・自転車駐輪場



中庭(たちばなの木)



中庭



東通用門

●2号館・3号館



電気工事实習室



電気系計測実習室



工業基礎実習室



電気機器実習室



電子工作実習室



電気制御実習室



機械制御実習室



アーク溶接実習室



ガス溶接実習室



各種機械実習室



NCセンター



普通教室、学習支援室

施設・設備 Facilities

●通信制校舎



普通教室



ホール



職員室



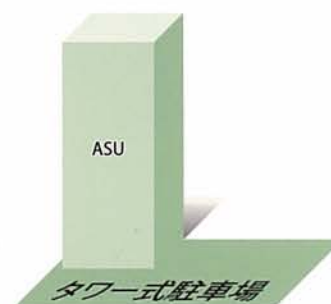
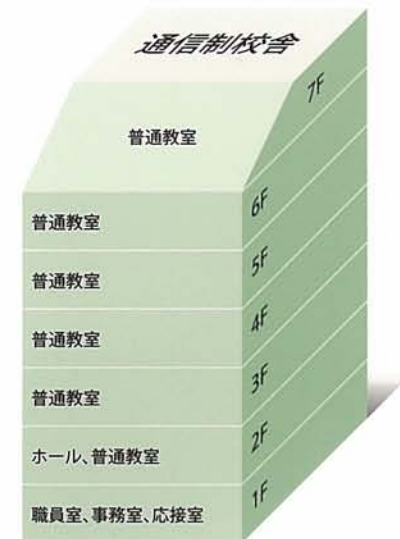
事務室



応接室



自転車駐輪場(通信制専用)



●4号館



タワー式駐車場



原動機実習室



自転車駐輪場



板金実習室

●伊勢山体育館



体育館



体育館

館内案内板

4階	管理室 空調機械室
3階	体育館 器具庫
2階	更衣室 洗濯室 クラブ室1-4 シャワー室 乾燥室 トレーニング室
1階	教官室 クラブ室1-2 倉庫 柔道場 剣道場 管理室



西側全景



剣道場



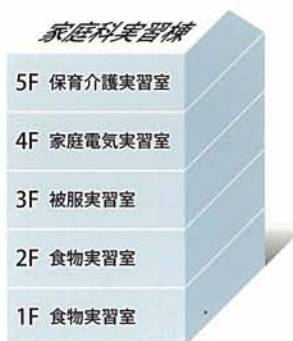
柔道場



南側



●家庭科実習棟



被服実習室



食物実習室



家庭科実習棟全景

施設・設備 Facilities

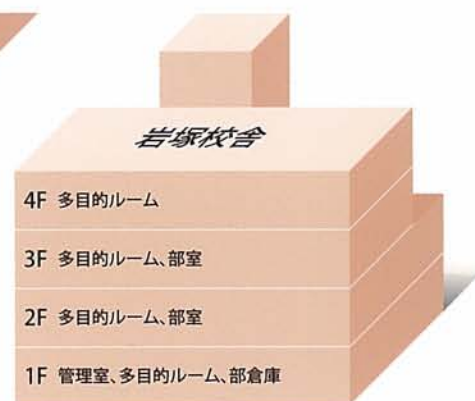
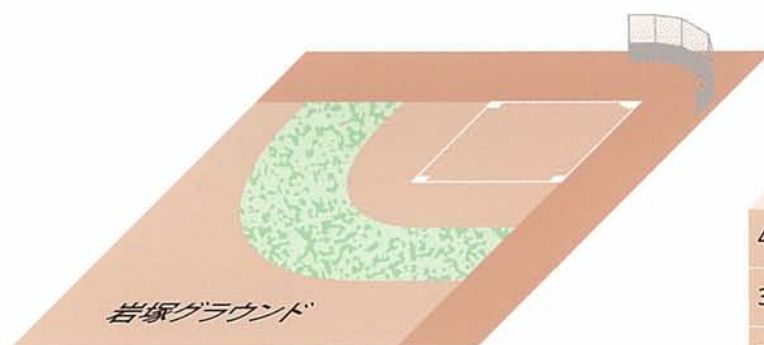
● 岩塚校舎／岩塚体育館／岩塚グラウンド



岩塚グラウンド



岩塚校舎



岩塚体育館



体育館



雨天練習場(人工芝)

愛産大工高はこんなところ

スクールライフ

名古屋市の中心にある
生徒の高校生活
三年間をサポートする
工業高校

学校法人 愛知産業大学



明日を夢見る学校

愛知産業大学工業高等学校



東海工業高校時代からの
校章を引き継いでいます。

ようこそ…
愛知産業大学
工業高校へ



愛知産業大学工業高校の基礎知識

本校は電子科・電気科・機械科の3科からなり、1学年10クラス(電子科・電気科:4クラス、機械科6クラス)で、全校で1000名以上が学んでいます。そして、姉妹校には愛産大三河高校、愛知産業大学・大学院ほか専門学校4校、中学校や幼稚園などがあります。

主役は君だ!!

「工業」という言葉は難しそうに感じます。

でも、電子科は情報(パソコンやデジタル機器)の勉強、電気科は電気のおこりから電気工事、機械科は加工から制御と、ちょっと専門的ですが、でも意外に簡単。第1にさわる!第2にやってみる!! 本校は50年間、わかりやすく教えています。

教育目標 新・建学の精神

豊かな知性と誠実な心を持ち
社会に貢献できる人材を育成する



校訓

感謝 礼儀
誠実 積極
努力

沿革

昭和36年愛知工業高等学校創立、後の電子科を設置する。以降、校名を東海工業高等学校とし、電気科、機械科、通信科を増設する。
平成13年校名を愛知産業大学工業高等学校に改称。

教育課程

一般科目と専門科目の配分を考え、1年次より容易に工業の専門分野にも適応できるカリキュラムの編成がなされ、進学、就職いずれにも対応できるよう講習も実施している。

学習指導

《各種資格の取得》に重点を置き、完全な補習体制で《よくわかる授業》の実施に努め、《やればできる》という自信とがんばり精神が持てるように、担任と教科担当の先生が丸となって指導にあたっている。

本校の特色

社会で認められる実力を身につけるということから、《各種資格の取得》には特に重点を置き、報恩感謝の念の育成からは《各種の奉仕活動》への参加を奨励している。確実に自主性は育てられている。

学校生活

挨拶、清掃がしっかりとできるまじめな生徒が多く、また部活動への参加もさかんである。放課後は部活動、進学の補習、資格取得の講習と生徒一人ひとりが自分の目標に向け努力する者が多い。

学校行事

オリエンテーション合宿・新入生歓迎会・球技大会・クリーン運動・文化祭・体育祭・予餞会・修学旅行・あけぼの学園奉仕活動など……

進路 進学が半数近く、就職も良好

今は比較的大学に入りやすくなっている。とは言うものもちろん勉強もせずには入るわけがない。本校には多くの姉妹校があり、強い強い味方になっています。就職は自動車やロケットを作っている工場もあれば、パンやお菓子を作っている会社もあり本当に幅広くどんな分野にもOK! これも本校の特色です。進学も就職もOK!

本校は 部活動に一生懸命

運動系14部、文化系17部があります。

運動系のバスケットボール部、空手道、陸上ホッケーの各部は全国大会でも活躍しています。また、少林寺拳法は、全国大会に毎年出場しています。文化系では、マーチングバンド部が全国でも有名です。その他、バレー、野球、卓球、剣道など積極的に活動しています。自動車部は1時間で何km走れるかの可能性に挑戦しています。

工業高校特有の部もたくさんあります。



情熱あふれる先生が
しっかりと教えています



創立50周年
卒業生は
22,881名です。

レベルアップ大作戦

将来、君はどのような仕事に就きたいですか。

君の夢に向かって、専門・普通科目の学習、そして放課後の補習、部活動、資格取得、生徒会活動など選択ができます。君に合った活動で+αの実力を身に付け自らの高校生活をエンジョイしよう。



資格ってなんだ

資格を一言で言うと

「資格は社会での実力の証明」

本校は社会で働く時に必要となる資格を完全な補習体制で合格させます。

社会では大変重要なのです



卒業生は造っています!



3年間のスケジュール





工業高校創立へ —愛知産業大学工業高等学校への歩み—

本校は名古屋市中区橋、東別院の西隣りに位置する。東別院は古くから名古屋人の信仰を集める寺院であるが、名古屋の古い住人は今でも東別院のことを「ごぼさま」という。「ごぼさま」は『御坊さま』の意であり、この御坊とは寺院または僧侶の敬称(広辞苑)である。

また、本校が設立されている土地は由緒ある場所でもあり、東西の通用門の脇には『芝居濫觴跡(橋座跡)』と名古屋市教育委員会の名で説明板がある。濫觴(らんしょう)とは中国の孔子の言葉で、「揚子江ほどの大河も、源流は觴(さかずき)を濫(うか)べるほどの小さな流れであるの意味から、物事の起こり、始まり、起源の事(角川国語辞典)」とある。「橋座」に見られる「橋」も本校所在地名、名古屋市中区橋として健在である。

さて、名古屋は芸どころ…と言われるが、名古屋における芝居の源流だったことがしのばれるが『芝居濫觴跡』の立て札には「寛文五年(1665年)九月からこのあたりが町屋となり春秋二回芝居興行が許された。享保十六年(1731年)七代藩主宗春の代になって、彼の積極策に繁栄の一途をたどり、東西の名優が競って来演し、絢爛たる芸苑の花を咲かせたが、元文四年(1739年)宗春の失脚で中断した。文化・文政期(1804年～1830年)再び活気を取りもどし、以後幕末の一時期を除き明治まで続いた」とある。この地は名古屋の芸どころの源流と言える。

この「芸どころ」の地に明治から続く女学校があった。後年、常懷学園・愛知女子工芸高等学校と称し家事・裁縫等の実践教育を行っていた。戦後、由緒あるこの女子高校が経営不振に陥るが、前理事長からの経営を移譲されたのが、本学園創立者・水野恒治理事長であった。水野恒治理事長は自らの戦争体験から今後の我が国には工業力が必要と痛感、工業技術者育成を目的とした男子生徒対象の愛知工芸高等学校を誕生させた。時に昭和36年4月のことであった。

余談ではあるが私は創立者の本校への思いを聞く機会に恵まれた。水野恒治理事長はあの図太い声で『私は工業高校で真に学びたい人のためにこの学校を創った。成績の優劣や貧富ではなく、まじめに勉強をしたい生徒を受け入れる。たとえばその生徒の成績等が良くなくても在学中に我々教職員が一生懸命に教示して、卒業するときには成績等も良く生徒自身が自信を持って社会に出て行くようにすることである。私も戸田先生も手弁当でやっている。だから他の学校には色々な面で及ばないことがあるかもしれないが、生徒を大事にして、その生徒の能力を引き出し、伸ばすことに全力を傾ける学校を目指している。若い先生は先輩教諭から多くのことを学んでほしい。そして、次

の時代を担ってほしい。まあ、その時には私も戸田先生もいないか……』と熱く語られた。これが本校の指針ではないだろうか。



愛知高等女子工芸学校校舎全景(昭和2年)



新校舎工事前



愛知高等女子工芸学校
(昭和3年アルバム)



生徒役員任命簿
(昭和35年～)

- 1961年7月 ▶ 中村八大のリサイクルで坂本九の『上を向いてあるこ
う』が発表される
8月 ▶ 東独、ベルリンの壁の構築を開始
9月 ▶ 日赤(日本赤十字社)が「愛の献血運動」を始める



愛知工芸高等学校創立 全日制課程・電気通信科でスタート

昭和36年4月1日、名古屋市中区橘2丁目6番15号に学校法人常懷学園・愛知工芸高等学校が創立する。全日制課程・電気通信科1学年2クラスが設置された。電気通信科は通信と技術の2コースがあり、通信コースは無線通信士養成を目的にしており、カリキュラムには通信術の実習が組み込まれ電鍵の音が実践室から聞こえていた。また、技術コースは現在の電子科の母体をなすもので無線技術を中心とした授業内容であった。

創立時の入学者は近隣の中学生に加え、水野恒治理事長のもと、先に開校されていた名古屋高等無線電信学校へ全国各地から入学するため転校希望の生徒も本校に入学した。転校生は無線通信士の免許取得を目的としていたためモールの通信科目の履修も可能とした。彼らは最初から本校へ応募したのではなく、無線電信学校で電気通信を学ぶ目的で集まった生徒であったので、理事長はじめ初代校長に就任された内田友次郎校長(名古屋高等無線電信学校から転任)や、女子工芸高校から引き続き主事を任された杉藤教諭の将来を見通した賢明な説得により、女生徒2名を含めた130名が入学した。2年生以上は女子生徒、1年生は男子生徒が混在する船出であった。

初年度の学びの舎は女子高校の木造校舎で行われたが、校地東側に東館として鉄筋5階建て一部7階の新校舎建設が始まり、年度末には完成を見ることになる。新東館完成後、女子・男子学生がその屋上に上がり、学校から周囲の景色(当時は高い建物がなく市内一円が見渡せた)をよく見たそうである。東館と棟続きとなる北館東側校舎の工事も進行していた。そして、北館西側校舎と西館(体育館含む)建設計画も発表されたが、新校舎工事の中、3年生と2年生の女子教育と1年生男子生徒の工業教育が木造校舎で実施された。年度末からは永年に亘り使用された木造校舎は徐々に姿を消し、本校は次第に工業教育の色合いを強めていった。

学校行事の朝礼・集会・体育授業等は東別院境内空地を借用し、授業は情熱あふれる新任の教職員が頑張った。

学校運営は理事長の薫陶のもと、建学の精神・校章・校訓・校歌・誓いの言葉などの制定準備と共に校則や教務、生徒指導の確立に懸命に協議努力したが、創立から2年余りは女子工芸高校との同時教育や新校舎工事に伴い、現在当り前に実施されている学校行事はほとんど実施できなかった。

しかし部活動は運動系が体操部・卓球部・山岳部・柔道部・陸上部・応援部、文化系が英会話部・文芸部・写真部・アマチュア無線部、放送部、書道部が意欲ある生徒と教員により創部されたが、特

に文化系部活動は女子工芸高校からの引き継ぎもあり、文化部は女子の先輩から1年生男子部員が指導を受けた。運動系部活動は体育館や道場、グラウンドの設備がない中でスタートであったが、生徒と教職員の意欲を内田校長がよく理解し、徐々に学校の形が出来上がっていく。

創立時、建学の精神と教育方針 水野恒治 理事長

本校の建学の精神は(社会から喜ばれる知識と技術をもち歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し英知と勤勉な国民性を高め科学技術、文化の発展に貢献する)であります。

戦後、日本の経済・文化が著しく成長を遂げましたことは世界の驚異であり、日本民族の英知と勤勉さによるものとして、我々の伝統ある国民性が発揮されたものと言ふべきであります。しかしその反面一部では、民主主義の真意を誤り、自由をわがまま勝手、平等

を無差別と心得る者も多く、国家社会の恩義を知らず、親への感謝の念を忘れ、自己のみを主張する自己中心主義的な若者が多いと評されるのは、国の将来のため、また、我が民族のためにはなほ遺憾なことであると本学園は認識しております。

本校は、このような世相にあつて、日本人としての国民性の自覚、高揚と、父母・社会に対する報恩感謝の念を保持し、新生日本をささえる青少年の育成をめざして設立されました。



たちばな会
設立40周年記念総会
平成23年9月3日(土)
ホテルキャスルプラザにて



大協会長挨拶



大協会長挨拶



乾杯



市川学校長挨拶



議事挨拶(大協会長)



総会受付



アトラクション(侍グループ演奏)(上・下)

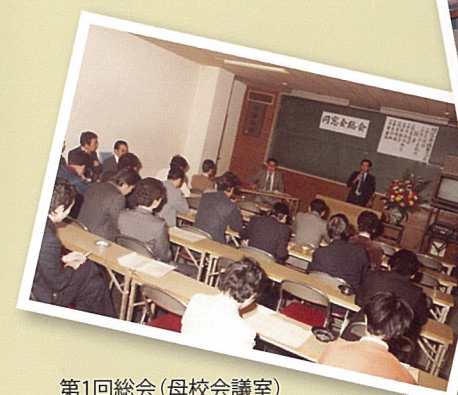


議事(近藤副会長)



議事・質疑

◎同窓会



第1回総会(母校会議室)



第10回総会(平成2年)



1回生、恩師と共に(平成23年)